

第五学年国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○

- 1 日時 11月○日(○) ○校時
- 2 学年・組 第5学年○組
- 3 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう
「たずねびと」

4 単元の目標

- (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知(1)オ)
- (2) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。(思C(1)エ)
- (3) 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。[学びに向かう力、人間性等]

5 単元で取り上げる言語活動 物語に対する思いや考えを伝え合う活動

6 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。【(1)オ】	「読むこと」において、本文の叙述を基に人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。【C(1)エ】	進んで物語の全体像を叙述を基に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを友達に伝え合おうとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級では、自分の考えを進んで発言することができる児童が多く、挙手をして発言することが苦手な児童についても、ノートなどに自分の考えを書くことができる。また、総合的な学習の時間を通して、本教材にも登場する「原爆供養塔」や「平和記念資料館」に実際に足を運び、ヒロシマの被爆の実相について学ぶ経験をしている。それゆえに本教材に対する関心は高く、平和というテーマについて様々な意見が飛び交うことが予想される。また、これまで「読むこと」の学習において、登場人物の相互関係や心情などについて、叙述を基に捉える学習を行ってきた。しかし、登場人物の心情を読み取る時に、複数の叙述を基に考えたり、情景描写から想像したりすることが難しい児童もいることが分かった。平和学習の経験を多く積み重ねてきているからこそ、本教材の叙述に着目させていく必要があると考える。

(2) 教材観

本教材は、広島出身の作者がヒロシマで起きた未曾有の惨禍を、主人公「綾」を通して描いた作品であり、同姓同名の「楠木アヤ」という人物を広島まで訪ねていった「綾」が、そこでの様々な出会いによって、戦争や平和に対する思いを変化させていく形で物語が展開されている。そういった「綾」の心情の変化を、文章中の言葉や情景描写を基に解釈しながら物語の全体像を捉えさせることで、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力を身につけさせたい。

(3) 指導観

本単元では、「綾」の心情の変化を基に、物語の全体像を捉えていく。第一次では、物語を通読し、自分の心に響いた表現や深く読みたい一文を交流することによって、学習課題を設定することができるようにする。第二次では、「綾」が「楠木アヤ」や広島での出会いを通して、戦争や平和に対する思いを変化させていく様子を読み取り、物語の全体像を捉えることができるようにする。このとき、児童のこれまでの学びや経験に基づいた意見を大切にしつつも、根拠として考えた叙述に立ち返りながら学習を進めていくことに留意する。第三次では、「たずねびと」を読んで変化した自分の気持ちや考えを交流することで、戦争や平和に対する自分の考えを深めることができるようにする。

8 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	①単元扉を読み、題名などからどのような物語かを想像する。 ②全文を通読して感想や考えをもつ。	○初発の感想や考えをまとめながら、単元の学習課題につなげていけるようにする。	
	2	③初発の感想を交流し、学習課題を設定する。	○以下の視点で初発の感想を交流する。 ・自分の心に響いた表現 ・みんなで深く読みたい一文	【態】学習課題を捉え、学習計画を立てようとしている。[発言]
二	3	④1～4場面を読み、「綾からアヤへの関心の高まり」という視点から、綾の心情の変化を読み取る。	○出会ったものや人物から、綾が受けた影響や心情の変化について丁寧に読み進めていく。 ○行動や情景、心情描写などの	【知】登場人物の心情を捉えるときに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識している。 [発言・記述]
	4	⑤5～6場面における出会いが綾に与えた影響について考える。	言葉や表現に着目して、発言させたり記述させたりする。 ○根拠となる叙述を提示させたり、これまでまとめたものを	【思C】心情の変化を捉えて人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりしている。[発言・記述]
	5	⑥7場面における出会いが綾に与えた影響について考える。	提示しながら考えを述べさせたりする。互いの共通点や相違点を意識させる。	【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習に見通しをもって物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。 [発言・記述]
	6	⑦最後の場面を読みながら、綾の心情がどのように変化したのか話し合う。 【本時】		
三	7	⑧「たずねびと」を読んで変化した自分の気持ちや考えを書く。 ⑨グループで考えを交流する。 ⑩単元全体を振り返る。	○考えをまとめるときは、文中の言葉を引用したり、根拠となる叙述を指摘したりしながらまとめさせる。	【思C】物語を読んで、変化した気持ちや意見について、自分の考えをまとめている。[発言・記述]

9 単元のゴールの姿

- ①綾の心情の変化や物語の全体像について、文章中の言葉を根拠に説明することができる。
- ②物語を読んで感じたことや考えたことを伝え合うことを通して、自分の考えを深めることができる。

10 本時の学習（第二次6時）

- (1) 目標 心情の変化を捉えて人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

学習活動（○：発問 ◎主発問）	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
<p>1 綾の心情の変化を確認する。</p> <p>○「綾の心情はどれくらい変わったと思いますか。」</p>	<p>・広島に行く前と比べて、綾の心情に大きな変化があったことを確認することができるようにする。</p>	
<p>めあて：綾の気持ちがどのように変わったのか、話し合おう。</p>		
<p>2 物語の全体像を捉える。</p> <p>○「綾の心情の変化に影響を与えたもの（人）は、何でしたか。」</p> <p>(1) 平和記念資料館で見たもの (2) 追悼平和祈念館で見たもの (3) 原爆供養塔で出会ったおばあさん</p> <p>◎「変化した後の綾の気持ちを表している部分はどこですか。」</p>	<p>・(1)～(3)を引き出した後、それぞれが綾に何を伝えたのか確認する。</p> <p>・根拠となる叙述を提示させたり、これまでまとめたものを提示しながら考えを述べさせたりする。</p> <p>・複数の叙述に線を引かせ、児童の多様な意見を引き出すことができるようにする。</p>	<p>【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習に見通しをもって物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。[発言・記述]</p>
<p>3 本時のふり返しをする。</p>	<p>・ICT (Padlet) を活用し、他の児童の選んだ箇所やその理由を参照・評価できるようにする。</p> <p>・交流を通して、自分の考えがどう変化したのかを尋ねる。</p>	<p>【思 C】心情の変化を捉えて人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりしている。 [発言・記述]</p>

1 1 板書計画

